

# 宮川の風 第60号

平成30年10月5日(金)発行  
宮川小学校校長室からのたより

親だからといって、大人だからといって、子どもの悩みや問題を全て解決できるわけではありません。私たち教師も同じです。しかし、全てを解決できないから駄目な親、大人、教師ではないはずです。私たちには、できることがあります。それは、「寄り添う」ことです。子どもに「いとおいしい」という気持ちを持って接し、思いやってあげることができるのです。それでも、子どもからの反発もあるでしょうし、時には裏切られることもあるかもしれません。それでも、私たちは子どものことを信じて寄り添うことができるのです。子どもは、そんな大人の存在があることで、強く生きていくことができるのです。

この映画を観ると、そんなことを考えさせられるのかもしれませんが。裏面の記事をお読みください。「無心に隣にいてあげれば、子どもって育ってくれると思えて、勇気をもらいました」「目の前の問題が解決しなくても、何となく一緒にいる存在です」

私たちが教えるべきことはたくさんありますし、助言することで解決できる問題もあります。しかし、子どもは全てを解決してほしいと思っている訳ではないこともあるのではないのでしょうか。そっとそばにいてほしい。だまって話を聴いてほしい。私のことを信じて待っていてほしい。などと思うこともあるのではないのでしょうか。そっと抱きしめるだけで、不安や苦しみを和らげることはできるはずです。今、自分自身が子どもたちにとってのそんな存在になれるのだろうか。子どもから見たときに自分はどのような存在なのだろうか。いろいろと考えさせられました。

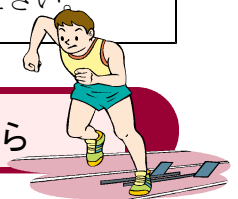
久しぶりに観たいなと思うドキュメンタリー映画です。鹿児島島で上映されることがあれば、出掛けていきたいと思えます。

平日開催となった運動会でしたが、多くの保護者や地域の皆さんにおいでいただき感謝でいっぱいでした。お仕事の都合で子どもさんの活躍ぶりを見ることができなかった方々には、大変心苦しい思いです。

準備や後片付けなどにご協力くださいました保健体育部や執行部、おやじの会、さらに、自主的に協力くださった方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

宮川小ホームページに運動会の様子をアップしていますので、ご覧ください。

## ある日のできごとから



運動会の翌日の水曜日。校庭には、新しいラインが引かれていました。11日(木)に行われます市小学校陸上記録会の400メートルトラックを模したラインです。セパレートコースで行われる種目ですから、学校の授業では経験できないことです。経験のない中で競技に参加しても、走るコースに気を取られ集中できない結果になります。そこで、毎年、職員がこの時期だけラインを引くのです。今回も運動会の片付けが終わった火曜日(運動会当日)の放課後にラインが引かれました。職員が動く子どもたちが動きます。翌日からさっそく、そのラインを使っただけの練習が始まりました。

陸上記録会では、厳格な審判が行われますので、違反した場合は失格となります。リレーの場合は、横と縦の限られたスペースの中でバトンパスを行わなければなりません。カーブでのバトンパスも普通にあることですから、実際のコースでの練習を積んでおかないといけません。

選手になった子どもたちは、職員力作のラインでしっかりと練習してくれています。今年の記録会ではどのような結果が出るか楽しみなところです。

(文責；鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二)